



温故知新 ～振り返ることの大切さ～

副校長 松井 栄人

新年明けましておめでとうございます。年末・年始は1年を振り返りながら、ゆっくりと過ごすことができましたでしょうか。年始には“お餅”が食卓を飾ることもあったかと思います。新年にお餅を食べることの意味には諸説あるようです。元日にやって来られる神様(年神・歳神)へのお供え物としてお餅を飾るという習慣から、お餅を食べ、神様からの加護や恩恵を受けて元気に1年を過ごすように考えたと言われていす。丸いお餅は家庭円満を表し、よく伸びるお餅は長寿延命を表すと言われています。言い伝えではありませんが、伝統的な日本の文化に触れることで、学ぶことやこれからに生かすこともあるのではないのでしょうか。

本校でも様々な活動や行事を通し、「本物に触れる機会」「日本の伝統・文化を学ぶ機会」を得るようにしています。感じたことや学んだことを振り返り、その良さや意義を今後の生活に生かすことは大切なことです。一人一人の児童・生徒が、今まで取組んできたことを思い出し、できることが増えたことに自信をもち、新たな気持ちでこれからも目標に向かっていろいろなことに取組み、1年間を締めくくる学期となることを期待しています。

3学期は、これまでの学習の成果を発表する「学習発表会」を1月27日(土)に行います。体育室を会場として舞台発表を中心とした取組みや、図画工作、美術の作品展示や作業学習の製品販売等も行います。この1年間の児童・生徒の成長の様子をぜひ御覧ください。

最後に、11月には学校評価アンケートの記入等に御協力をいただき感謝申し上げます。保護者の皆様からの御意見は、指導や今後の学校経営に活用させていただきます。これまで培ってきた学習の成果や成長の様子を保護者の皆様と共有し、児童・生徒一人一人の課題を的確に捉え、次への成長につなげていきたいと考えています。引き続き、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

『夢・未来プロジェクト～高田千明選手をお迎えして～』

主幹教諭 関口 淳

12月1日「夢・未来プロジェクト」を実施しました。「夢・未来プロジェクト」はオリンピック・パラリンピック教育の一環として行われているもので、オリンピック・パラリンピアン等のアスリートと児童・生徒が直接交流する取組みです。この取組みを通じて児童・生徒がオリンピック・パラリンピックの素晴らしさを実感し、スポーツへの関心を高め、夢に向かって努力したり困難を克服したりする意欲を培おうとするものです。本校ではパラリンピアン視覚障害部門の高田千明選手をお招きしました。

高田選手はリオパラリンピック2016に出場され、昨年7月には世界パラ陸上ロンドン大会において日本新記録で銀メダルを獲得されています。当日は、デフリンピック陸上競技選手の高田裕士選手も来校され、御夫妻で練習していることや、「絆」と呼ばれる伴走用のガイドロープを使用して走る際の信頼や思いやりなどの心構えについて、模範演技を交えてお話しいただきました。アイマスクをして歩く、走るなどの体験や伴走体験、また高田選手との競走を通して、パラリンピックやスポーツへの興味・関心を高めることができました。東京オリンピック・パラリンピック2020に向けて、高田千明選手をこれからも応援していきたいと思ひます。

